



最初にお読みください

CentreCOM® 8624PS リリースノート

この度は、CentreCOM 8624PS をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0785-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0785-02 Rev.A）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.5 pl03 (2.6.5-03)

2 本バージョンで修正された項目


ソフトウェアバージョン 2.6.5 pl02 から 2.6.5 pl03 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 システム起動後 1 日以上経過した後で拡張モジュール AT-A47 上の GBIC ポートがリンクダウンすると、該当ポートがリンクアップしなくなることがありましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.5 pl03 には、以下の制限事項があります。

3.1 SHOW USER コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証データベース」


Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになります。

3.2 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」


- ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。
- ログメッセージフィルターの設定（ADD LOG OUTPUT コマンド）において、MODULE パラメーターに SWITCH を指定しても（MODULE=SWITCH）、スイッチングモジュールのログが出力されません。これを回避するには、スイッチングモジュールの ID である 87 を指定してください（MODULE=87）。

3.3 トリガー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」


CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

3.4 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards がカウントされません。
- スイッチポート 25 ～ 26 の ifInDiscards がカウントされません。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。
- dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。
- 拡張モジュール AT-A47 に GBIC を装着していない状態で本体を起動すると、ifMauStatus の値が other(1) ではなく operational(3) になります。
- ifType の値が ethernetCsmacd(6) ではなく iso88023Csmacd(7) になっています。
- RIP を使用しているとき、ipForwardNumber の値が常に 0 となります。
- インターフェース MIB の ifPromiscuousMode (ifXEntry 16) に false(2) を Set しても、自分宛てでないパケットを受信します。

3.5 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。

3.6 SET TTY コマンドの PAGE パラメーター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

3.7 SHOW SWITCH COUNTER コマンド

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


RIP が有効化されているインターフェースがリンクダウンしていると、SHOW SWITCH COUNTER コマンドの Transmit/Discards がカウントアップされます。

3.8 SHOW SWITCH PORT コマンド

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

SHOW SWITCH PORT コマンドの実行時、PoE 関連項目の前にコマンドプロンプトが表示されることがあります。


3.9 ポートトラッキング

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートトラッキングと RIP を併用しているとき、トランクグループの所属する IP インターフェースがダウンすると、他の IP インターフェースから送信される RIP Response パケットの始点アドレスに、ダウンしたインターフェースのアドレスがセットされます。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行すると、ポートトラッキングが動作しなくなります。設定可能なトランクグループは最大 6 個なので通常は問題ありませんが、最初に設定を作成するときなど、コマンドラインから CREATE SWITCH TRUNK コマンドと DESTROY SWITCH TRUNK コマンドを繰り返し実行するようなケースでは、CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行する可能性があります。入力した設定内容は正しく保持されていますので、ポートトラッキングの設定変更後は、設定を保存し、システムを再起動することをおすすめします。
- トランクグループをマルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートとして使用している場合、SHOW CONFIG DYNAMIC=SWITCH を実行しても、ポートトラッキング関連のコマンドが表示されません。これらのコマンドを確認するときは、SHOW CONFIG DYNAMIC でコンフィグ全体を表示させてください。なお、本現象は表示だけの問題であり、動作には問題ありません。
- 起動時設定ファイルにおいて、ポートトラッキングの設定が VLAN へのポート割り当て設定より前に書かれていると、起動時にポートトラッキングの設定が有効にならずループが発生します。EDIT コマンドなどで設定ファイルを編集するときは、ポートトラッキングの設定が VLAN 設定の後になるよう注意してください。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターでメンバーポートを指定した場合、指定ポートがマルチプル VLAN (Private VLAN) の同一グループ所属であるかのチェックが行われません。これを回避するため、マルチプル VLAN とポートトラ

キングを併用するときは、先にトランクグループを作成してから、トランクグループをマルチプル VLAN に割り当ててください。

3.10 スパニングツリープロトコル

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」**


- 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して SET STP PORT コマンドを実行するときは、下記のように STP ドメイン名を明示して、STP ドメインごとに設定を行ってください。STP ドメイン名を省略した場合、PATHCOST や PORTPRIORITY の変更がすべての STP ドメインに反映されないことがあります。

```
set stp=s1 port=1 portpriority=96
```

```
set stp=s2 port=1 portpriority=96
```

- STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されます。STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てるときは、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしたポートがないかどうかを確認してください。
- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。すでに有効化されている STP ドメインに対して、ENABLE STP コマンドを再実行しないでください。実行した場合は、DISABLE STP PORT コマンドを再実行してください。
- スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されます。
- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。
- スパニングツリープロトコル (STP) とスタティックエントリー (スイッチフィルタ) の併用時、BPDU が正常に受信できないためポートの状態が Blocking になりません。STP とスタティックエントリーは併用しないでください。

3.11 フォワーディングデータベース

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」**


- ルーティングパケットと本体 (CPU) 宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース (FDB) のスタティックエントリーが機能しません。
- 起動時設定ファイルにスタティックエントリーの登録コマンド (ADD SWITCH FILTER コマンド) が 1 ポートあたり 300 件以上書かれていると、起動後 CPU 負荷が 100% になります。スタティックエントリーの登録は 1 ポートあたり 299 件までにしてください。

3.12 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」


EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

3.13 802.1X 認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

Multi-Suppllicant モード (MODE=MULTI) に設定した Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。

3.14 TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

3.15 ディレクティブブロードキャストパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

特定 VLAN に対するディレクティブブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF-FF-FF) 宛でのディレクティブブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティブブロードキャストパケットを転送できなくなります。

3.16 IP インターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

3.17 SHOW IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

SHOW IP ROUTE コマンドでは、リンクダウンしているインターフェース (VLAN) 名の後に「#」が表示されますが、VLAN ID が 4 桁の場合は「#」が表示されません。これは表示だけの問題であり、動作上の問題はありません。また、SHOW IP INTERFACE コマンドでは、VLAN ID が 4 桁でも「#」が表示されます。

3.18 ネクストホップが自分自身である経路

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ネクストホップが自インターフェースアドレスと一致している経路を IP の経路表に登録してまいります。

3.19 ARP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」


マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリブートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

3.20 DHCP リレー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」


パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされません。

3.21 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

3.22 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正


同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8624PS コマンドリファレンス 2.6 (Rev.A)」の補足事項です。


4.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

4.2 システム時刻とログ

 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」](#)


 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」](#)

- 本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびにシステム時刻が 1999 年 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒に戻ります。ログなどの記録日時を正確に保つため、可能な限り NTP の利用をおすすめします。
- syslog サーバーにログを転送するときは、NTP を併用してください。

4.3 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム


受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

4.4 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループット

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」](#)

スイッチポートに受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります (低下の度合いは通信状況に依存します)。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

4.5 フォワーディングデータベース

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」](#)

初回のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されないことがあります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

4.6 DHCP/BOOTP リレー

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」](#)

マルチホーミングと DHCP/BOOTP リレーは併用できません。

5 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE、ADD、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

CLASSIFIER, DHCP (SET DHCP EXTENDID は除く) , ENCO, ETH, GARP, GUI,
HTTP, LDAP, OSPF, PKT, PKI, SERVICE, SKEY, SSH, SSL, TACPLUS, TEST,
TACACS, VLANRELAY, VRRP
- 以下のコマンド（パラメーター）

ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP GROUP
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP TARGETADDR
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP USER
COPY
CREATE/SET TRIGGER [BEFORE] [AFTER] [DATE] [DAY]
CREATE/SET TRIGGER TIME
CREATE/SET LOG OUTPUT [MAXQUEUESEVERITY] [PASSWORD]
[QUEUEONLY] [DAY]
CREATE/SET LOG OUTPUT DESTINATION=ROUTER
DUMP
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]
SET SYSTEM HOSTID
SET SYSTEM TERRITORY
SET SYSTEM RPSMONITOR
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME
SET SYSTEM DISTNAME
SHOW SYSTEM TEMPERATURE

ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH BIST
SET/SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [SPEED={10MHAUTO | 10MFAUTO | 100MHAUTO |
100MFAUTO | 1000MHAUTO | 1000MFAUTO | 1000MHAF | 1000MFULL}]
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE

ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [OSPFMETRIC] [FILTER]
[POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER] [MULTICAST] [IGMPPROXY]
[ADVERTISE] [PREFERENCELEVEL]
ADD/CREATE/DELETE/DESTROY/DISABLE/ENABLE/SET/SHOW IP MVR
ADD/DELETE/DISABLE/ENABLE/RESET/SET/SHOW PING POLL
ADD/SET IP ROUTE FILTER [PROTOCOL=OSPF] [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SHOW IP TRUSTED

ADD/CREATE/DELETE/DESTROY IP IGMP DESTINATION
ENABLE/DISABLE/SHOW IP ADVERTISE
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
FINGER
SET IP AUTONOMOUS
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
PURGE PING TOTALLY
SET BOOTP MAXHOPS
TRACE [ADDRONLY]

